

平成27年度秋田県農山村ふるさと保全検討委員会

【資料4】

「守りたい秋田の里地里山50」推薦地区の認定について

「守りたい秋田の里地里山50」推薦地区の認定について

1 募集期間

平成27年6月22日から8月21日まで

2 応募地区数

8管内 計14地区が市町村の推薦により応募

3 現地での確認

- 平成27年9月9日～9月15日
- 市町村担当者、地元代表等の立ち会いの下、実施

4 評価について

- 応募実施要領の評価基準により農山村振興課で実施

(別紙評価集計表参照)

5 認定後のサポート等について(案)

- 認定地区を県のホームページ等でPRして、魅力発信に努める。
- 現地に標柱、看板等を設置し認定地区であることを明示して、地域内外にPRする。
- 地域の代表等を棚田等の保全に関する全国研修会「棚田フォーラム」に派遣して、意見交換等を通じて見識を深めてもらう。
- 地域外からの様々な支援を受ける取組を働きかける。
- 地域の農産物等の販売促進につなげるよう取組支援を働きかける。
- 農山村振興課で実施する、オーナー制、バスツアーなど、「ふるさと水と土基金」を活用した事業について予算の範囲内で優先的にすすめていく。
- 将来とも安心して地域農業に取り組めるよう、必要に応じて小規模な基盤整備を支援する。
- 規模は小さくても、地域資源を活かした特色ある農業・食ビジネスに取り組めるよう、ソフト・ハード両面から支援する。

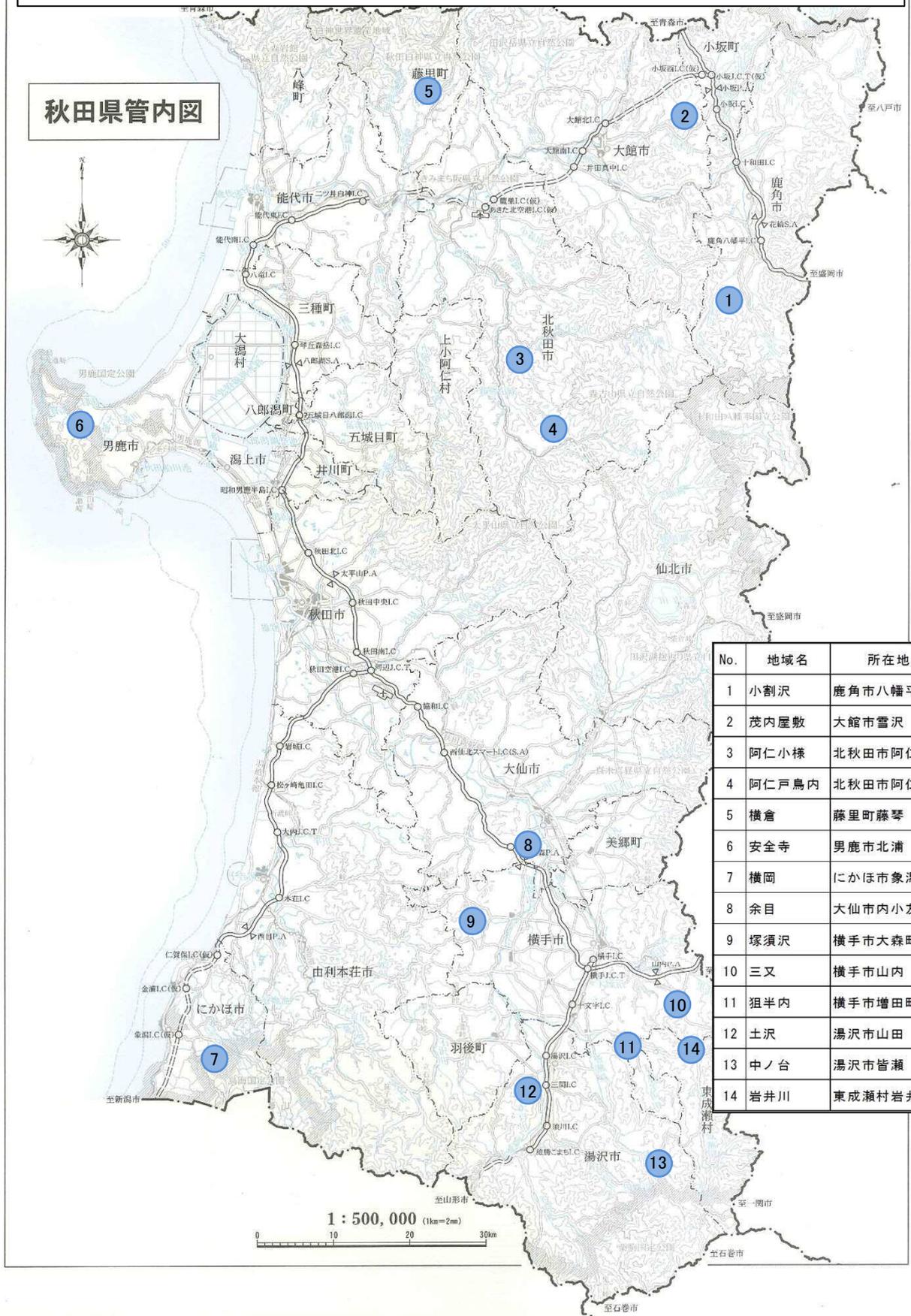
「守りたい秋田の里地里山50」 推薦地区

管内	No.	地域名	所在地	面積 (ha)	備考
鹿角	1	小割沢	鹿角市八幡平	12.5	
北秋田	2	茂内屋敷	大館市雪沢	1.6	
	3	阿仁小様	北秋田市阿仁	15.3	
	4	阿仁戸島内	北秋田市阿仁	23.8	
山本	5	横倉	藤里町藤琴	8.8	
秋田	6	安全寺	男鹿市北浦	19.0	
由利	7	横岡	にかほ市象潟町	160.0	
仙北	8	余目	大仙市内小友	25.3	
平鹿	9	塚須沢	横手市大森町	12.1	
	10	三又	横手市山内	54.9	
	11	狙半内	横手市増田町	71.1	
雄勝	12	土沢	湯沢市山田	24.0	
	13	中ノ台	湯沢市皆瀬	20.0	
	14	岩井川	東成瀬村岩井川	7.0	

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の
2万5千分の1地形図を使用した。」
(承認番号 平23情使、第293-29150号)

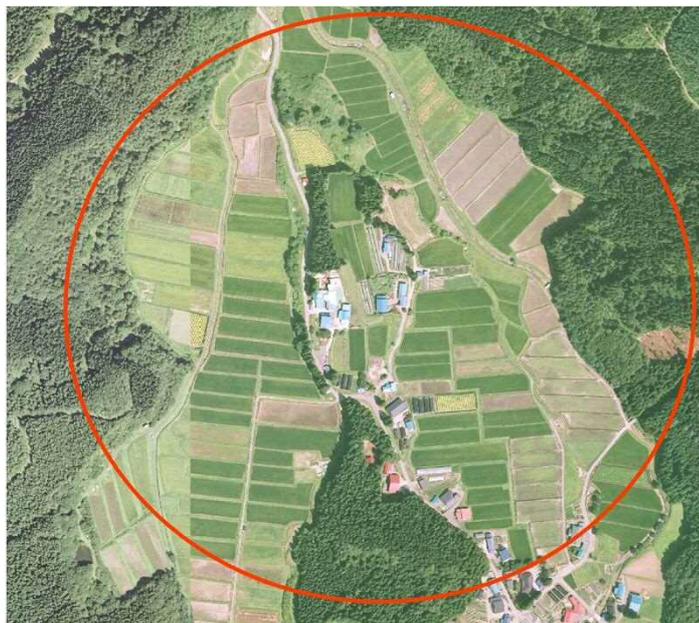
「守りたい秋田の里地里山50」 推薦地区位置図

秋田県管内図



No.	地域名	所在地
1	小割沢	鹿角市八幡平
2	茂内屋敷	大館市雪沢
3	阿仁小様	北秋田市阿仁
4	阿仁戸鳥内	北秋田市阿仁
5	横倉	藤里町藤琴
6	安全寺	男鹿市北浦
7	横岡	にかほ市象湯町
8	余目	大仙市内小友
9	塚須沢	横手市大森町
10	三又	横手市山内
11	狙半内	横手市増田町
12	土沢	湯沢市山田
13	中ノ台	湯沢市皆瀬
14	岩井川	東成瀬村岩井川

地区名： No.1 小割沢(こわりざわ)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 鹿角市八幡平小割沢
- 地区の規模 : 12.5ha
- 地区の傾斜 : 1/18
- 棚田等の枚数 : 60枚
- 標高 : 260～310m
- 組織等の名称 : 小割沢集落協定(中山間)

2 営農・保全の状況

- 転作率が60%を超え、牧草やソバ・葉タバコなどを作付し複合経営に取り組んでいる。
- 地域の約3割が畜産を営んでおり、また、地域内で牧草を生産し畜産農家に提供するなど循環型の農業経営が確立されている。

3 景観に関する特記事項

- 三方を山に囲まれ、標高約300mと高いところにあり、年間を通じて冷涼な気候で、降雪も多い典型的な中山間地である。
- 地区の傾斜が1/18と急勾配の水田地帯であるが、地域住民の共同活動により手入れが行き届いている。

4 活動状況に関する特記事項

- 平成12年に組織化された小割沢集落協定(中山間地域等直接支払制度)により、地域コミュニティの活性化や農地・農業用施設の整備などに意欲的に取り組んでいる。
- 地域住民により、農地、農道、水路のきめ細やかな維持管理作業や、ヘリコプターを活用した共同防除活動が行われている。

5 その他特記事項

- 石礫が多いほ場であり、耕作は難儀しているが、複合経営に積極的に取り組んでいる。
- 耕畜連携した複合経営を展開している。

地区名: No.1 小割沢(こわりざわ)地区



地区名： No.2 茂内屋敷(しげないやしき)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 大館市雪沢字茂内屋敷
- 地区の規模 : 1.6ha
- 地区の傾斜 : 1/14
- 棚田等の枚数 : 11枚
- 標高 : 140~145m
- 組織名 : 茂内屋敷集落協定(中山間)

2 営農・保全の状況

- 稲作中心に営農を行っており、稲作のほかは保全管理となっている。

3 景観等に関する特記事項

- 茂内屋敷は米代川の北側支流である長木川流域に沿った地域で、長木溪谷と棚田の調和が取れ、地域住民が一体となって維持管理活動を行っている。

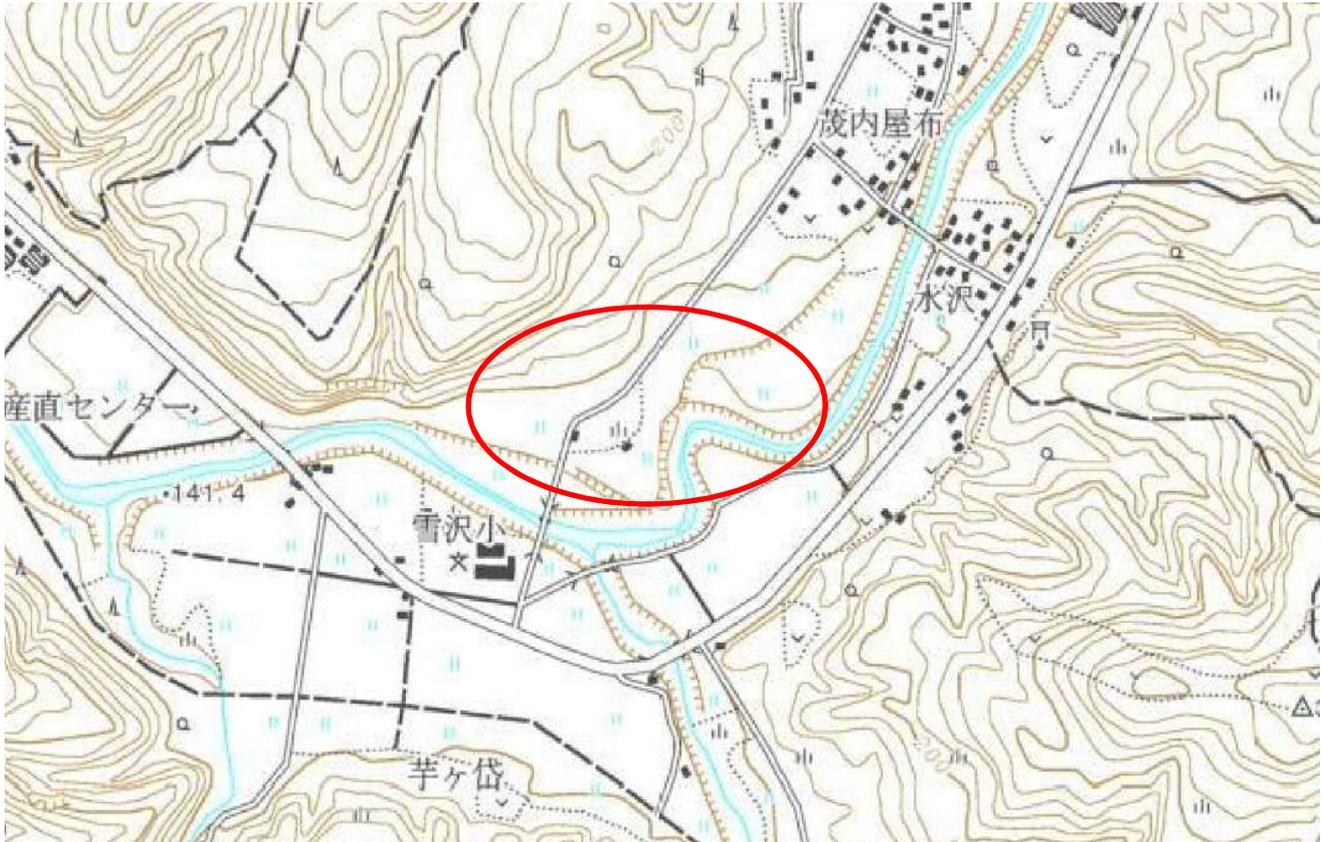
4 活動状況に関する特記事項

- 農道や水路等の保全管理は、中山間地域等直接支払交付金を有効に活用し、地域住民が一体となって行っている。

5 その他特記事項

- 長木溪谷があり、溪谷を中心に水田が広がっている。
- 付近に旧小坂鉄道を利用したレールバイクなどもあり、農観共に味わうことができる。
- この地域では、悪霊祓いと五穀豊穰を祈り、古くから田植え後に「鹿島祭」が行われてきており、祭りでは、茂内屋敷鹿嶋太鼓が打ち鳴らされる。

地区名: No.2 茂内屋敷(しげないやしき)地区



地区名： No.3 阿仁小様(あにこさま)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 北秋田市阿仁小様
- 地区の規模 : 15.3ha
- 地区の傾斜 : 1/17
- 組織名 : 阿仁小様集落協定(中山間)

2 営農・保全の状況

- 各団地において、転作作物としてそばの生産に積極的に取り組んでいる。
- 耕作放棄地が発生しないよう「作業受託部会」を設立し、集落内で協力して営農活動に取り組んでいる。

3 景観等に関する特記事項

- 集落で協力して営農活動に取り組み、美しい農村景観を作り出している。
- 地域の向林集落では、古民家が点在しており、休耕田を活用したソバ畑とともにビュースポットとなっている。

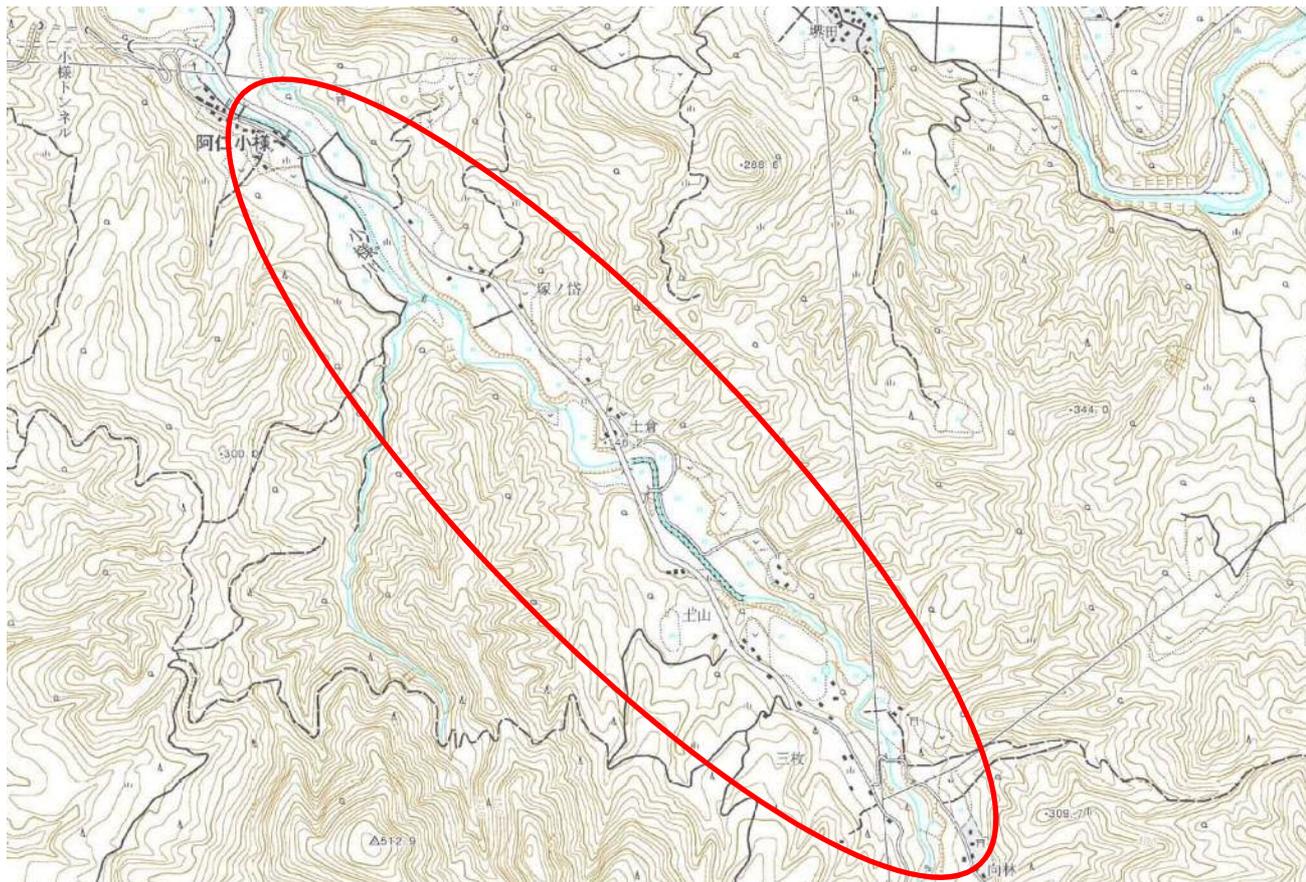
4 活動状況に関する特記事項

- 景観作物の作付けや、環境保全活動の一環として調整水田をビオトープとして活用して水生生物の保護を行っている。
- 秋には、住民が一同に集まりそば収穫祭を行うなど、住民間のつながりも強い。
- 地域の青年会としてスタートした「小様酒和会」が、30年以上の間、イベントを企画してきている。

5 その他特記事項

- 阿仁鉱山の歴史があり、鉱山ゆかりの史跡が今も残っている。
- 地域の有志で、伝統野菜「小様きゅうり」の生産に取り組んでいる。

地区名: No.3 阿仁小様(あにこさま)地区



地区名： No.4 阿仁戸鳥内(あにととりない)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 北秋田市阿仁戸鳥内
- 地区の規模 : 23.8ha
- 地区の傾斜 : 1/17~1/37
- 棚田等の枚数 : 200枚
- 標高 : 300m
- 組織名 : 阿仁戸鳥内集落協定(中山間)、戸鳥内大野棚田地区活性化組合

2 営農・保全の状況

- 棚田の環境保全、景観維持、収益向上を目指し、戸鳥内大野棚田地区活性化組合を設立し、営農に取り組んでいる。
- 棚田を維持していくために、中山間地域等直接支払交付金事業や土地改良事業等を積極的に活用している。

3 景観等に関する特記事項

- 棚田が開かれたのは、今からおよそ100年前、かつては茅葺き屋根の茅が植わる茅刈り場であった。
- 昭和40年代に現在のほ場(200枚の棚田)に整備されたが、かつては2200枚の田があったとされる。

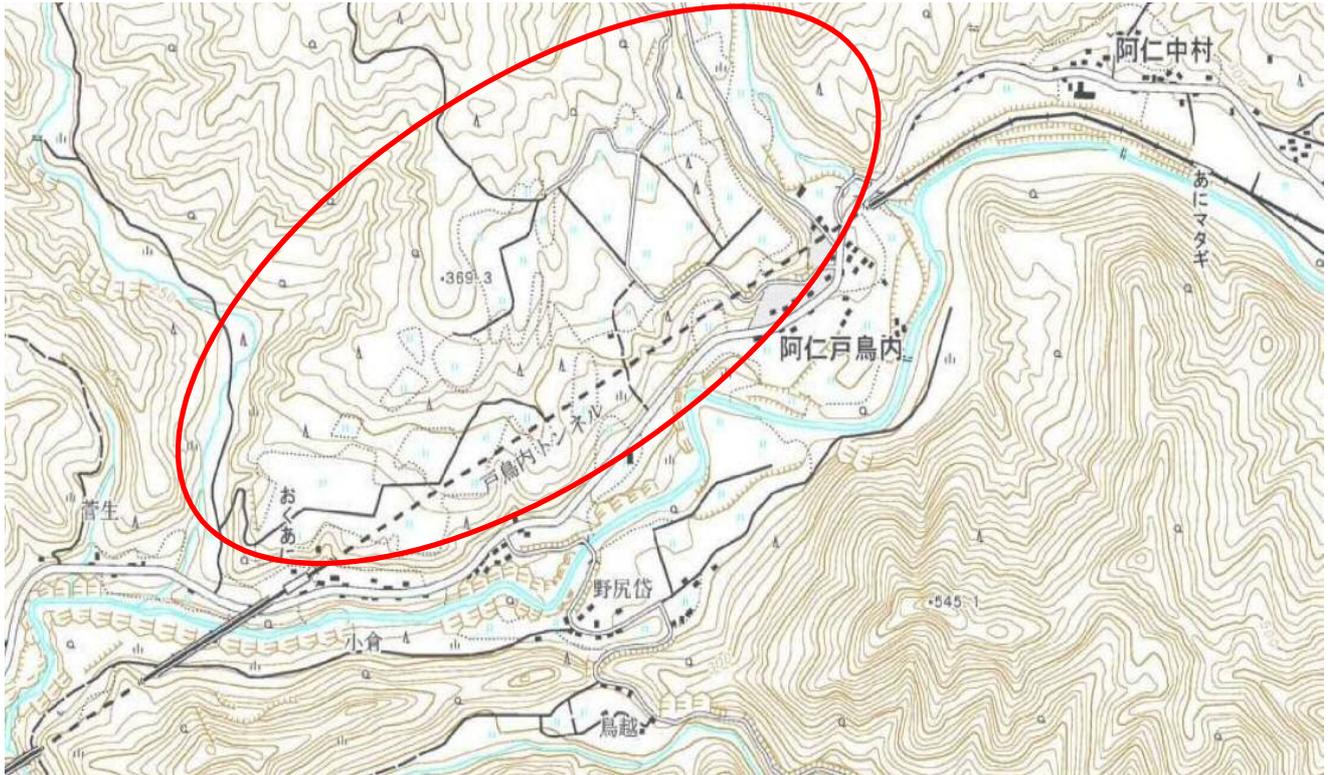
4 活動状況に関する特記事項

- 平成12年に組織化された阿仁戸鳥内集落協定(中山間地域等直接支払制度)により、地域住民共同で棚田の維持保全を図っている。

5 その他特記事項

- 関東を中心に展開している食べるスープ専門店「Soup Stock Tokyo」の社員が、来年春に田植え研修に来る予定となっている。

地区名: No.4 阿仁戸鳥内(あにとりない)地区



地区名：No.5 横倉(よこくら)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 山本郡藤里町藤琴字横倉
- 地区の規模 : 8.8ha
- 地区の傾斜 : 1/7
- 棚田等の枚数 : 33枚
- 標高 : 154~232m
- 組織名 : 横倉集落協定(中山間)

2 営農・保全の状況

- 藤里町で唯一の棚田を有する地区で、地下からの湧水を利用して水田経営が行われている。
- 水田のほか、湧水を利用してワサビ、クレソン、セリ等の栽培が行われており、その他は耕作放棄地とならないよう自己保全管理されている。
- 刈り取りした稲は、稲架がけにより自然乾燥しており、おいしいお米と評判になっている。

3 景観等に関する特記事項

- 未整備の地域であり、昔ながらの棚田(不整形田)が残されている。

4 活動状況に関する特記事項

- 平成23年度から、(株)白神ぶなっこ教室による棚田オーナー制度に取り組んでおり、地域外の人たちとの交流活動を行っている。
- 農道や水路等の保全管理は、横倉集落協定(中山間地域等直接支払制度)により、地域住民が一体となって行っている。

5 その他特記事項

- 横倉地区からさらに林道を上っていくと、江戸時代に作られた農業用ため池の水無沼があり、美しい景観を保っている。
- 水無沼の水は、山の麓の真名子地区の田畑を潤している。

地区名: No.5 横倉(よこくら)地区



地区名: No.6 安全寺(あんぜんじ)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 男鹿市北浦安全寺
- 地区の規模 : 19.0ha
- 地区の傾斜 : 1/20~50
- 棚田等の枚数 : 213枚
- 標高 : 30~48m
- 組織等の名称 : 安全寺里山保全会(多面的)

2 営農・保全の状況

- 現在の営農は、大半が水稻となっている。
- 平成24年度から「農地・水保管理支払交付金」による保全活動を実施し、農道や水路の保管理や、地域の美化運動などに地域住民が一体となって活動に取り組んでいる。

3 景観等に関する特記事項

- 男鹿の霊峰真山・本山を背景に広がり、里山の田園風景が見られる地区である。
- この棚田が織りなす四季豊かな風景は、長い間地域の相互扶助の努力により守り続けられ、地域住民の心の支えと癒やしを与えている。

4 活動状況に関する特記事項

- 地域全体で、「多面的機能支払交付金事業」や「ふるさとオーナー事業」を活用し、地域住民と県内外のオーナーが協力しながら農地の有効活用と保全に努めている。「オーナー事業」では、田植え等の農業体験の他に、この地域に伝わる四季に応じた伝統的な料理や文化に関する体験を取り入れ、オーナーや体験者と共に安全寺地区の特徴や魅力を伝えながら農地や風景の保全に努めている。

5 その他特記事項

- 大学生との活発な意見交換等を毎年開催し、地域活動の継続に力を注いでいる。
- 年数回、「かわら版」を発行するなど、地域内や地域外の活動参加者への広報活動を続けている。
- 毎月1回、「安全寺の未来を語る会～おらほの部落にいげいげ!」を開催、集落、学生等が参加する座談会を行っている。

地区名: No.6 安全寺(あんぜんじ)地区



男鹿半島の美しい里山の田んぼを乱わらずに一緒に守り育てていきませんか

男鹿安全寺 里山の美田オーナー

募集!!

男鹿半島の里山に広がる水田は、長年その耕作歴から土地に合った稲に育ち、例年その豊作、地域の相互扶助の営みにより守り続けてきた、美しい水田の裡に育ちました。また、里山を山・谷・川を貫き通る里山の景観に育ちました。見守る人の心も稲が育む心も、里山を育み、二のよりの里山を育むの営みを守り育てる取組を企画して行われる「オーナー」を募集します。

●オーナーメニュー
 ・Aコース 安全寺の美田(お米)30kg 1口 10,000円
 ・Bコース 安全寺の美田(お米)10kg 1口 3,500円
 ○オーナーには安全寺や農産物の収穫体験も付きます。

●体験型メニュー(オーナー以外の大人専用)※お米付き
 ・田植え交流会 6月8日(※田植え体験は終了しました。)
 ・稲刈り交流会 10月予定
 ・その他のイベントを検討中!

安全寺への道の図
 2. 安全寺の美田
 1. 安全寺の美田
 3. 安全寺の美田
 4. 安全寺の美田
 5. 安全寺の美田
 6. 安全寺の美田
 7. 安全寺の美田
 8. 安全寺の美田
 9. 安全寺の美田
 10. 安全寺の美田

◆実施主体 安全寺里山保全会◆ (代表 宮田 孝彦)
 〒985-3302 男鹿市 電話・FAX 0185-33-4027



地区名： No.7 横岡(よこおか)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : にかほ市象潟町横岡
- 地区の規模 : 160.0ha
- 地区の傾斜 : 1/20
- 棚田等の枚数 : 550枚
- 標高 : 220～280m
- 組織等の名称 : 横岡集落協定(中山間)

2 営農・保全の状況

- 稲作主体で、転作作物としてそばを作付している。
- 中山間地域等直接支払交付金を活用し、地域一体となって田・農道・水路などの維持管理を行っている。

3 景観等に関する特記事項

- 後ろに鳥海山、前方は日本海を眺望できる位置にあり、急勾配の水田を共同作業により、地域一体となって守っている。
- 昭和40年代～50年代に県営のほ場整備事業により整備され、整然とした美しさを有している。

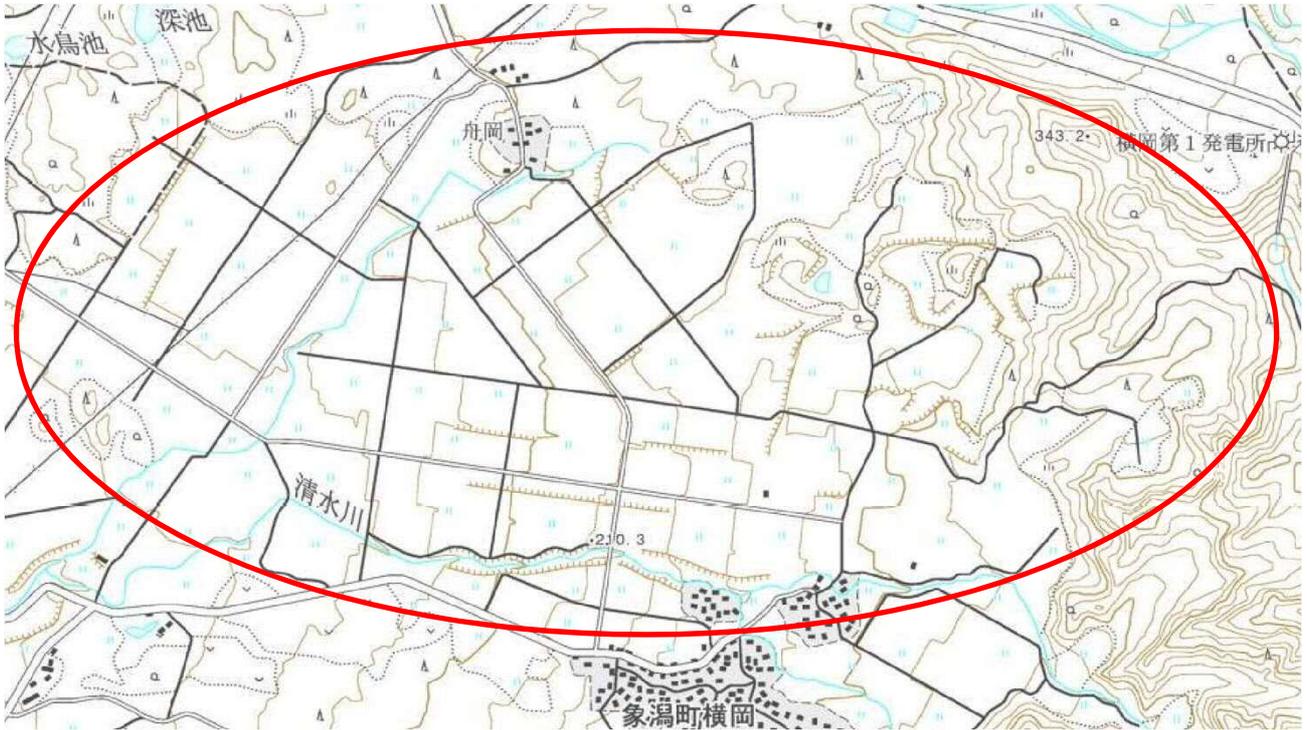
4 活動状況に関する特記事項

- 平成22年度から東京都港区芝浦地区の子供たちをホームステイさせて、野菜の収穫やそば粉を使ってのそば打ちなどの農業農村体験を行うグリーン・ツーリズムを実施している。
- 毎年、道路沿いに植栽を行うなど、美化活動を実施しており、県外からも視察が来ている。

5 その他特記事項

- 地域では古くから伝わる行事と新しく始めた行事を織り交ぜ、様々な活動が行われている(サエの神小屋焼き、石持ち占い、鳥海山日立舞、神明社祭典、運動会 等)。

地区名: No.7 横岡(よこおか)地区



地区名: No.8 余目(あまるめ)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 大仙市内小友高寺、元木、落合
- 地区の規模 : 25.3ha
- 地区の傾斜 : 1/24
- 棚田等の枚数 : 7枚
- 標高 : 54~58m
- 組織等の名称 : 大仙市大曲地域農地・水・環境保全組織
余目地域活性化いきいき会議協議会

2 営農・保全の状況

- 本地域は水稻の他、そばの作付面積が多く占めている。収穫されたそばは、製粉・調理され、地域にある直売所で販売されており、また収穫期には新そば祭りというイベントも行われ、地域の中心を担う作物となっている。

3 景観等に関する特記事項

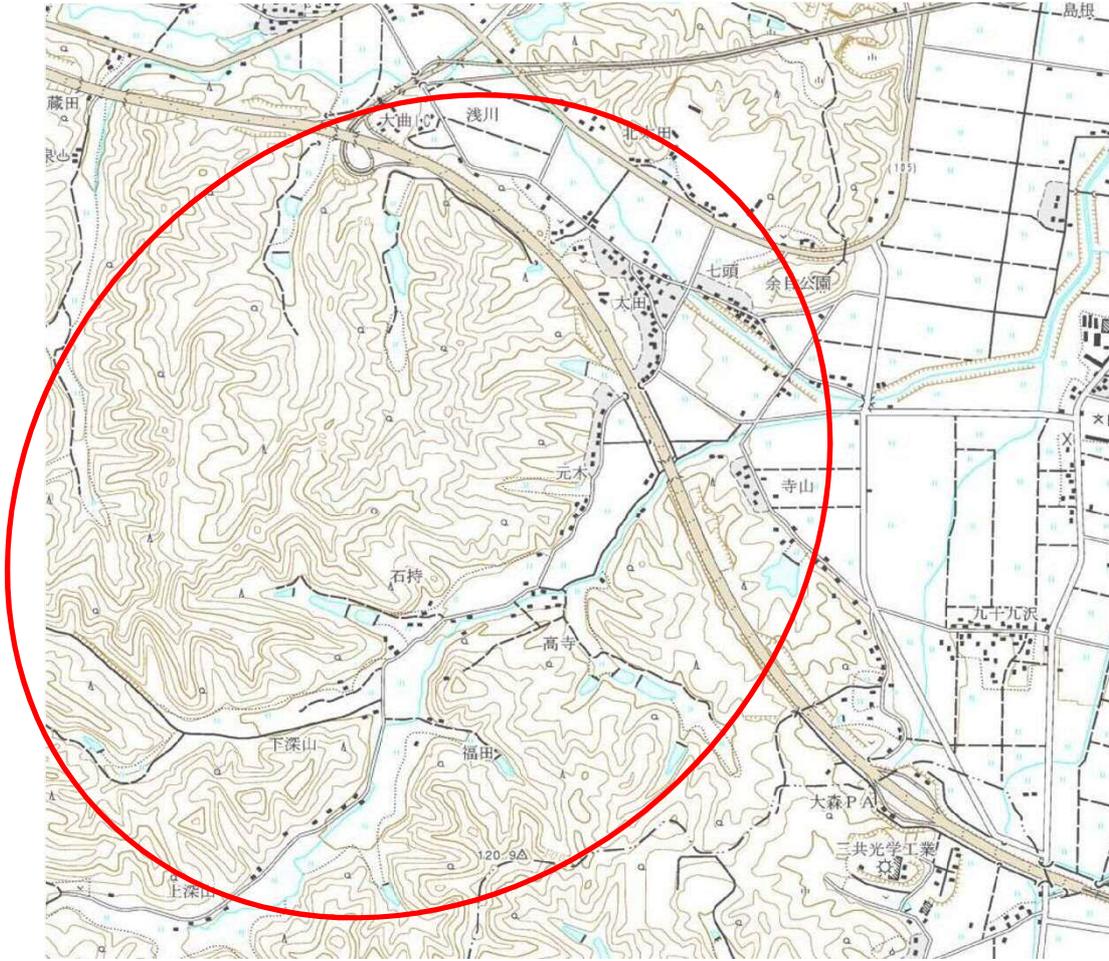
- 山あいの緑豊かな地域であり、内小友市民協働自然観察公園、余目公園といった自然と触れ合い、住民同士が交流できる環境が整っている。
- また高寺山の頂上には高寺山神社があり、それにつづく参道には鳥居や経塚等が建てられている。また頂上には安土桃山時代に落ちのびてきたと伝えられる、難波平治満友という在地豪族の居城址もあり、本地域が有している長い歴史を感じさせる。

4 活動状況に関する特記事項

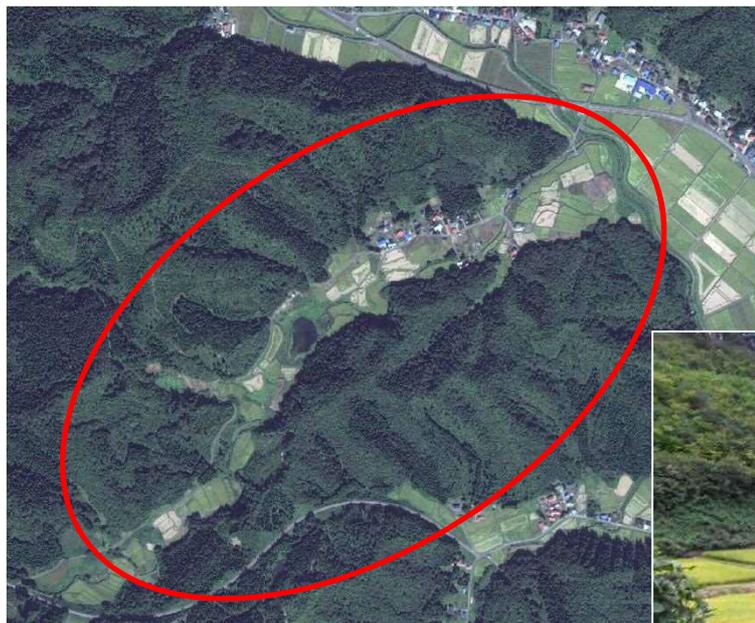
- 交流活動としては、余目地域活性化いきいき会議協議会を中心とし、毎年いくつもの行事を実施している。一例として、観桜会や花火観賞会、ほたる観賞会、新そば祭り等を行っており、これらは毎年恒例の行事となっている。また田んぼオーナーの募集、過去には首都圏との親子交流会を行うなど、地域内外にかかわらず積極的な交流活動を行っている。
- 環境活動としては、多面的機能支払交付金事業の組織による草刈り、水路の泥上げ等、農用地周りの保全活動が行われている。また本地域は内小友市民協働自然観察公園を有しており、ビオトープやホテルの生息する水路等の維持管理による生態系保全も行われている。
- 本地域ではふるさとオーナー受入モデル地区体験交流活動支援事業を活用し、子どもを対象とした田んぼの生き物観察会やそばの刈り入れ、そば打ち体験会を実施し、農業や環境を通じて地域コミュニティ効果と啓発普及に力を注いでいる。

5 その他特記事項

地区名: No.8 余目(あまるめ)地区



地区名： No.9 塚須沢(つかすざわ)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 横手市大森町八沢木字塚須沢
- 地区の規模 : 12.1ha
- 地区の傾斜 : 1/17
- 棚田等の枚数 : 79枚
- 標高 : 65~115m
- 組織等の名称 : 塚須沢集落協定(中山間)

2 営農・保全の状況

- 塚須沢の沢水で育てた米を「天水米」として流通し、高い評価を得ている。
- 棚田保全だけでなく、農地を守るため、また豊かな自然を守るため集落が一体となって活動に取り組んでいる。

3 景観等に関する特記事項

- 横手市西部の山あいには位置している豪雪地帯で、集落12戸が総出で先祖から受け継いだ水田を守り、清流には魚や沢ガニが生息し、鳥や虫の声が心を和ませ、四季の良さを感じ取れる農村の美しい原風景を一体となって守っている。
- 春にはかたくりの花が咲き乱れ、山からは小鳥のさえずり、川には沢ガニやサンショウウオなどが生息し、季節を通じて癒やしてくれる「田舎」がある。

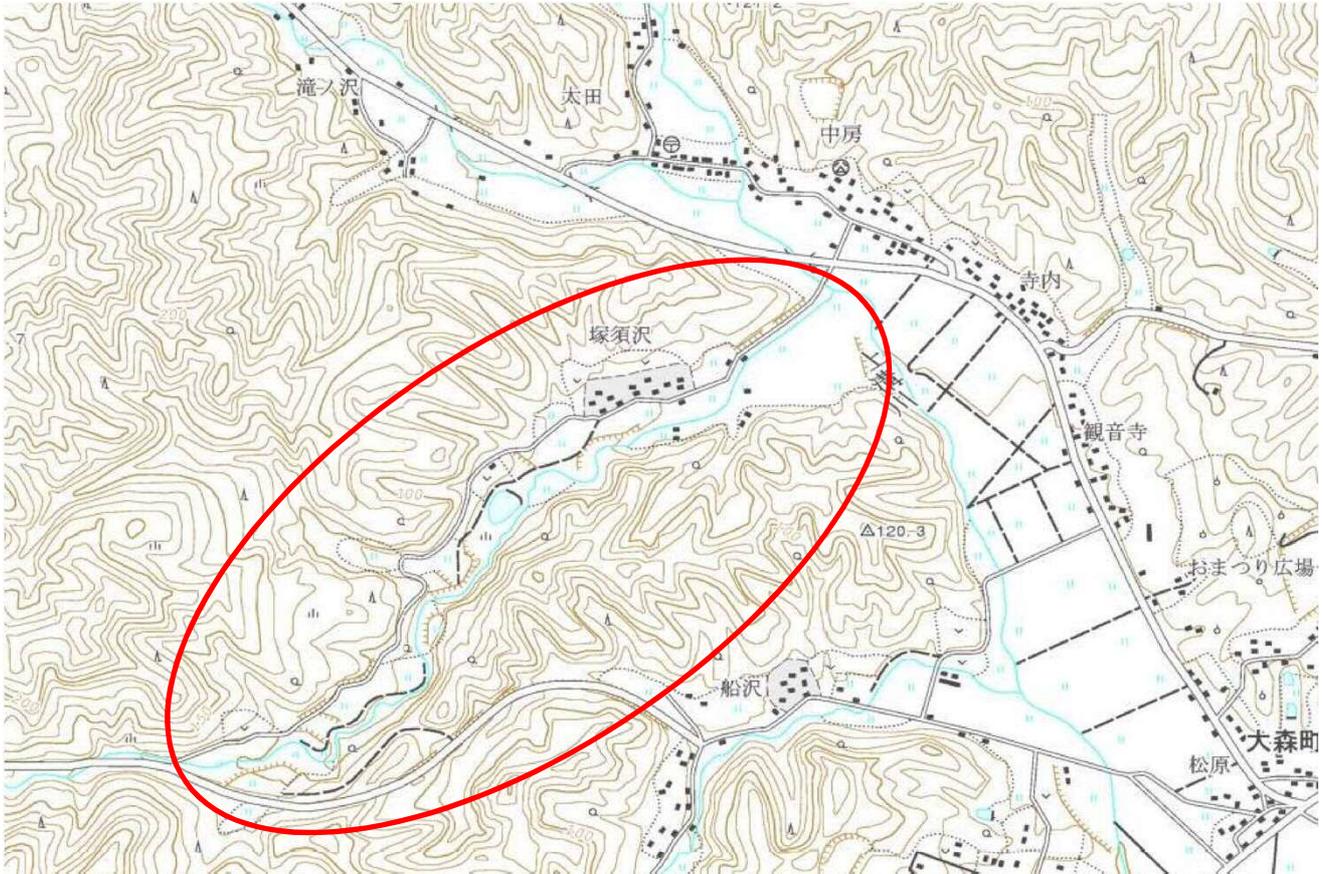
4 活動状況に関する特記事項

- 22年度から地域の棚田保全に協力する「棚田オーナー」の募集を開始し、田植えや稲刈りといった体験から、様々な自然と触れる農業体験学習の受け入れを積極的に展開している。
- 「大森町グリーン・ツーリズム推進協議会」と手を取り合い、地域で採れた農産物を使った漬け物作りなど食に関する体験や、ホテル鑑賞、魚とり、しめ飾り作りといった季節に応じた体験を取り入れ、五感すべてを使ってこの地域を理解してもらう交流を行っている。

5 その他特記事項

- 食体験などのほかに、初夏に行う「視感体験」というものがあり、ペットボトルで作ったランタンを田んぼのあぜ道に置き、夕日が傾きか始めた頃、あかりを灯す。しばらくするとホテルが飛び交い、静寂に包まれた山間に幻想的な風景が浮かび上がる。

地区名: No.9 塚須沢(つかすざわ)地区



地区名： No.10 三又(みつまた)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 横手市山内三又
- 地区の規模 : 54.9ha
- 地区の傾斜 : 1/16～1/77
- 棚田等の枚数 : 813枚
- 標高 : 210～340m
- 組織等の名称 : 二タ瀬、貝沢台・鷹ノ巣、甲堰、堂林・野田、本田、赤竹、落合
(各中山間集落協定)

2 営農・保全の状況

- 集落の大部分を山林が占め、農地はいわゆる中山間地域に存しているため、生産条件不利地での営農を続けている。
- そのような中、平成18年に組織された「三又営農生産組合」は、高齢化などにより作付けが困難になった農地を維持するため、水稻作付のほか、そば、伝統野菜である山内にんじん、だいこんなどの複合作物にも取り組んでいる。

3 景観等に関する特記事項

- 横手市中心部から南東へ約20kmの横手側の最上流部に位置しており、その良好な自然条件を活かし地区で生産された米を「清流米」として出荷している。

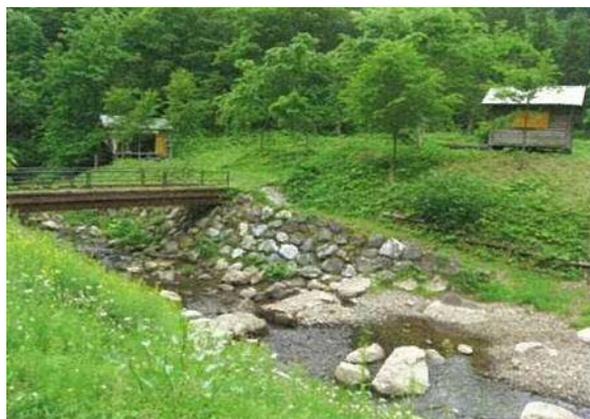
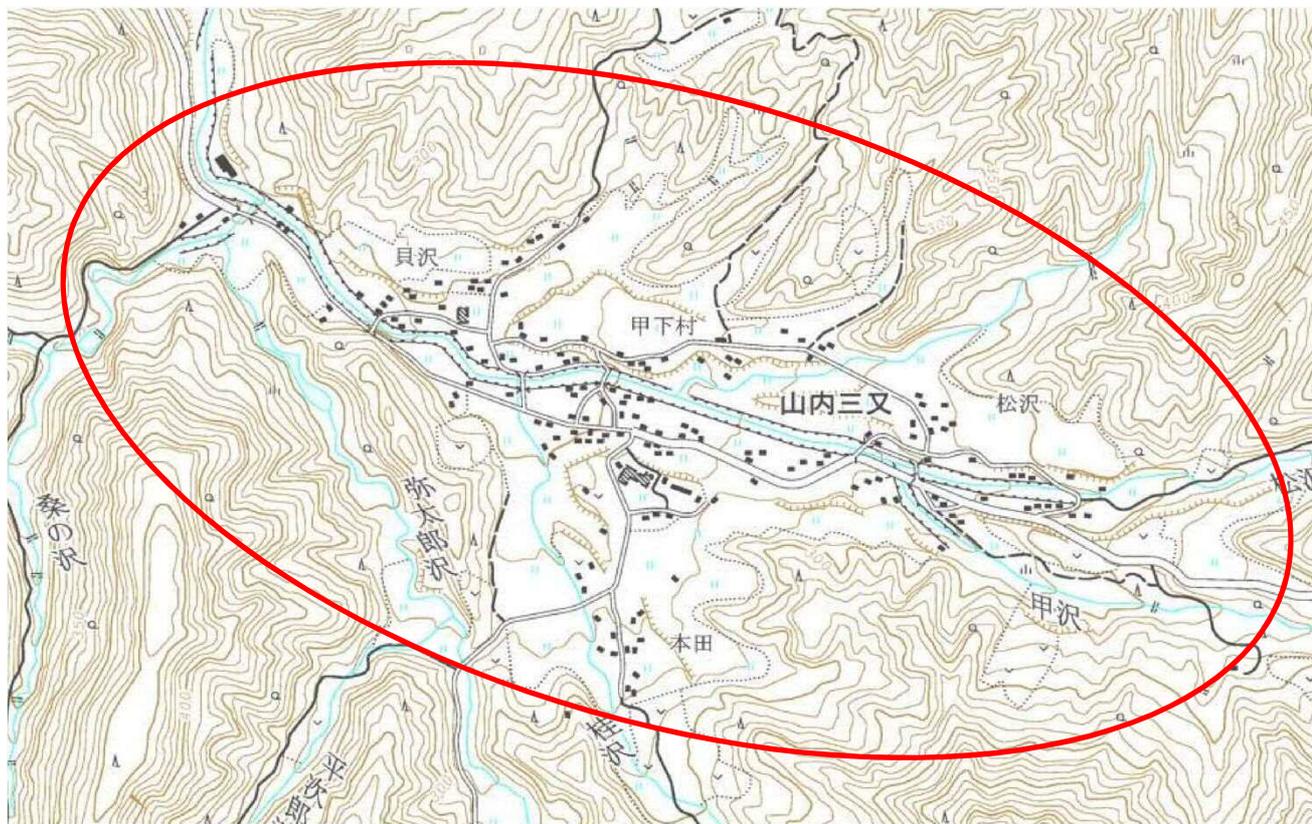
4 活動状況に関する特記事項

- 毎年8月14日には自然にマッチした工法で整備された沢に魚を放し、魚釣り大会やイワナのつかみ取りを行う「三又溪流まつり」を開催しており、集落内外から多くの人が訪れている。
- また、首都圏等からの農作業体験の受け入れや農家民宿による観光客の受け入れにより、地域の特徴や魅力を伝えながら地域全体の活性化に取り組んでいる。

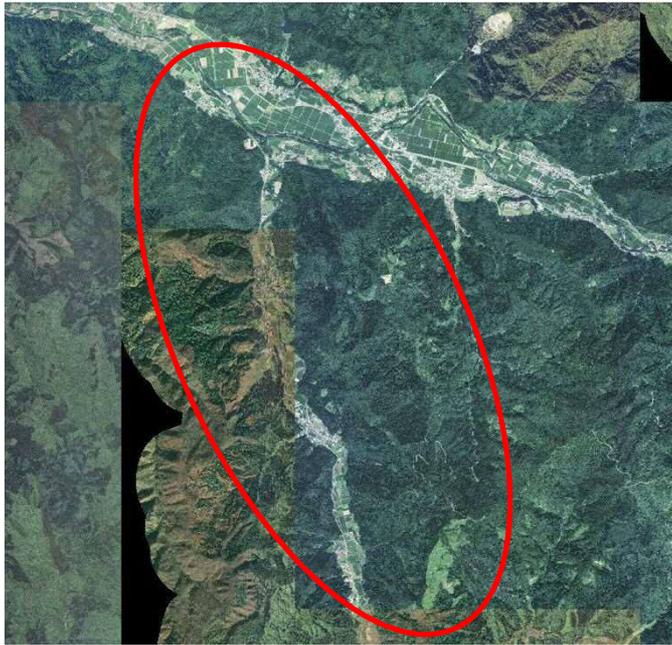
5 その他特記事項

- 三又営農生産組合では、耕作放棄地を活用して整備した「三又観光わらび園」の運営も行っており、シーズン中は県内外からたくさんのお客さんが訪れている。
- 平成24～26年度に「中山間地域農業活性化緊急基盤整備事業」(県営事業)を実施し、暗渠排水と用水路が整備されており、中山間地という条件不利をマイナスととらえず、地域の特産物として山菜や伝統野菜などの生産拡大に力を入れている。

地区名: No.10 三又(みつまた)地区



地区名： No.11 狙半内(さるはんない)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 横手市増田町狙半内
- 地区の規模 : 71.1ha
- 地区の傾斜 : 1/20~1/100
- 棚田等の枚数 : 678枚
- 標高 : 165~340m
- 組織等の名称 : 川口、小栗山、中村、火石田、上畑、滝ノ下（各中山間集落協定）

2 営農・保全の状況

- 雪消えが遅く、中山間地域の存する生産条件不利地であるが、稲作を中心に、転作作物として主にそばを栽培している。
- 農道や水路の保安全管理は、中山間地域等直接支払交付金を有効に活用し、地域住民が一体となって行っている。

3 景観等に関する特記事項

- 県道と狙半内川に沿って点在する6つの集落からなり、積雪量の多い横手市の中でもさらに雪深い地域である。
- 過疎化や高齢化が進む地域にあつて、地域住民が一体となって農地を保全し、幻灯をはじめとする行事を協同で行うなど、住民が主体的に地域に活性化や保全に取り組んでいる。

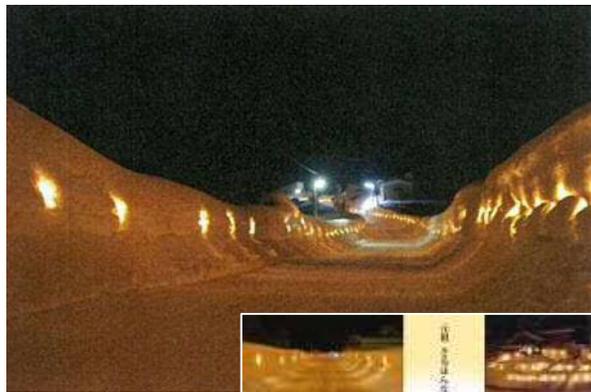
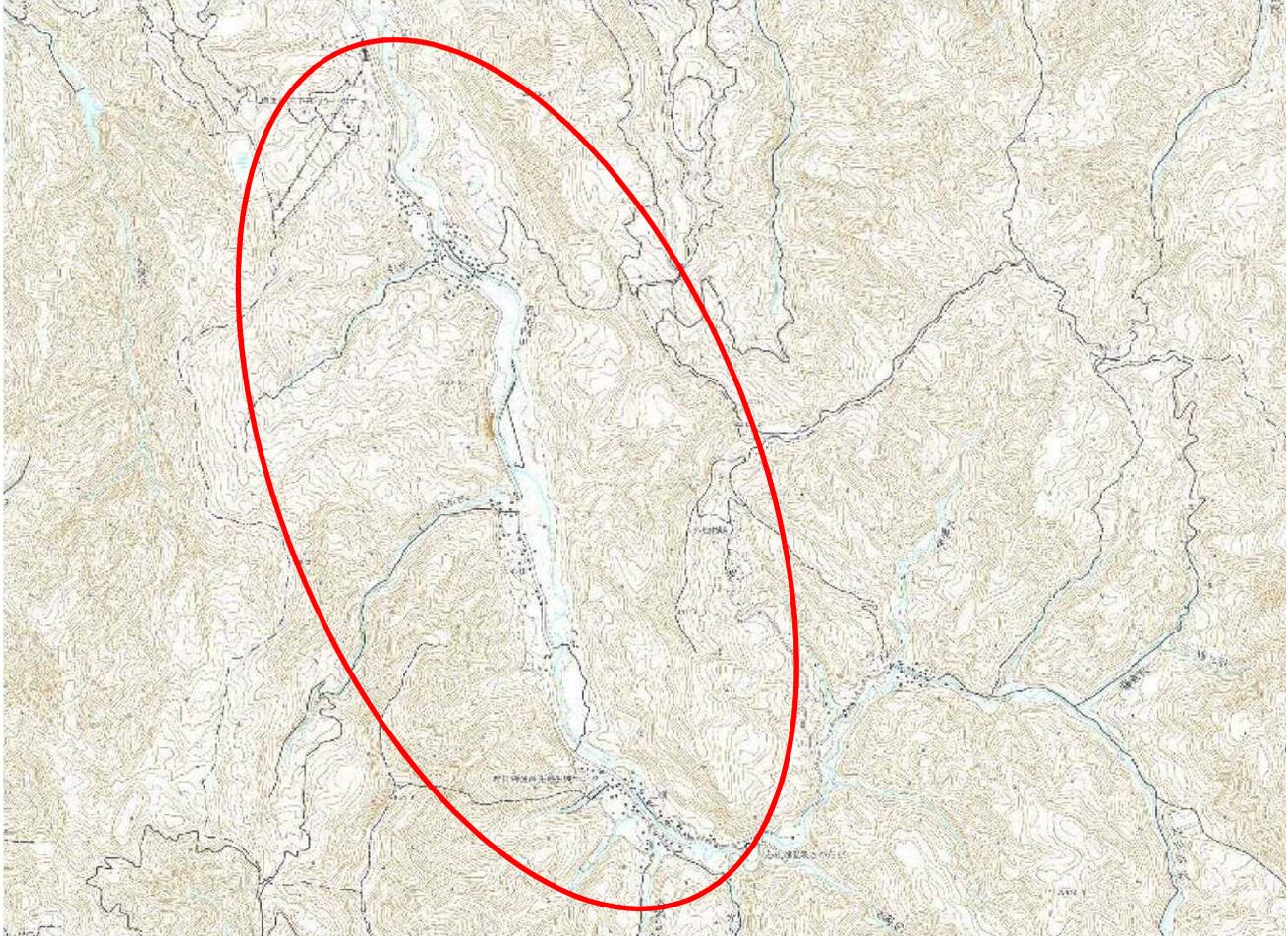
4 活動等に関する特記事項

- 毎年2月、地域の沿道約10kmの雪壁に、小さな雪洞を掘り約3000本のろうそくを灯す「幻灯」を開催している。かまくらや雪像も作成され、年々増加する観光客には甘酒や豚汁などをふるまうなど、地域住民が一体となって観光客をもてなしている。

5 その他特記事項

- 夏はふれあい農園での自然体験、冬はスキー場で雪を楽しむことができ、温泉や地元産のそば粉を使用したそばも堪能できる。

地区名: No.11 狙半内(さるはんない)地区

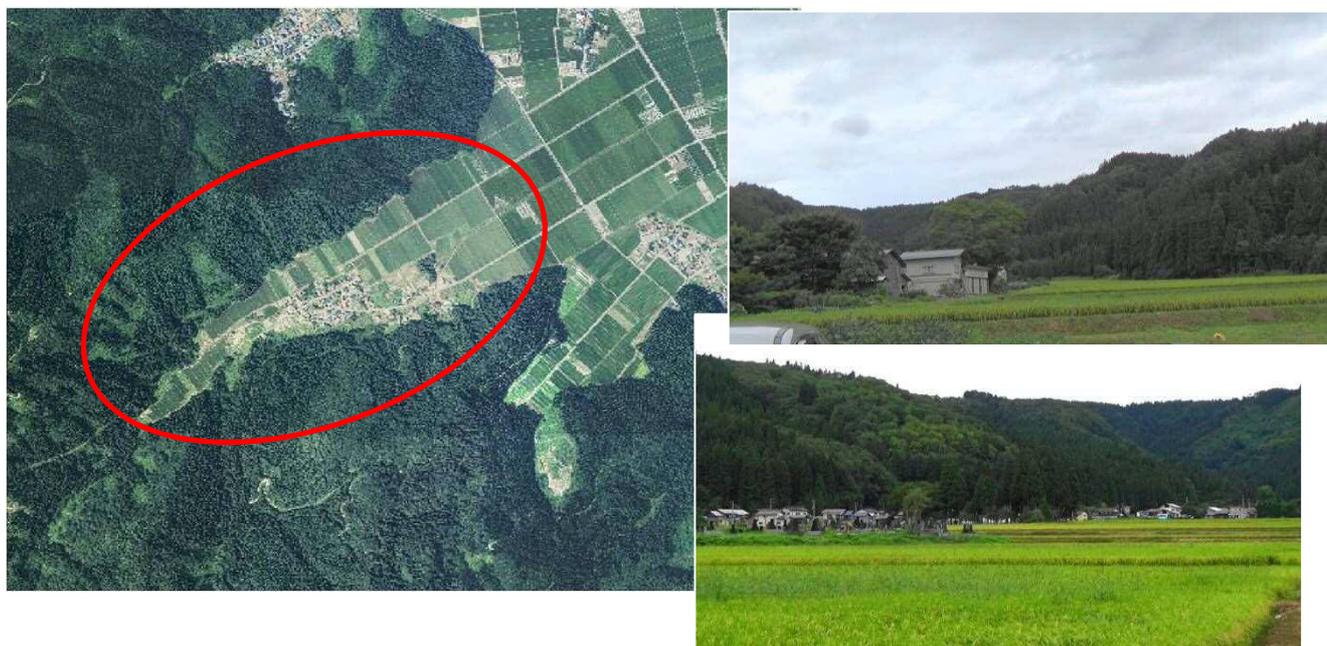
A vertical poster for the event "Saruhannai GEN-TOH 2014". The poster features several small images showing the illuminated road at night. The text on the poster includes:

10kmのメルヘンロードに3000個のろうそくが灯る
幻想的な冬の夜。

2/15 (Sat) 2/16 (Sun) 18:00-21:00

主催：秋田県観光センター 協賛：秋田県観光局

地区名： No.12 土沢(つちさわ)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 湯沢市山田字北土沢
- 地区の規模 : 24.0ha
- 地区の傾斜 : 1/30
- 棚田等の枚数 : 210枚
- 標高 : 92m～140m
- 組織等の名称 : 田螺溪流の里地域資源保全隊(多面的)

2 営農・保全の状況

- 現在の営農は、大豆が約1haが作付されているほか、大半が水稲となっている。
- 用排水路の清掃、農道・水路の補修、地域全体の草刈りを年2回実施し、環境保全に努めている。

3 景観等に関する特記事項

- 耕作放棄地や休耕地がなく、営農が一体的な広がりがあり、地域住民が景観や環境を保全する活動を行うなど維持管理が行き届いている。
- また、地域資源を活用した交流活動を行い、伝統文化の保存に努めている。
- 県営のほ場整備事業により整備され、整然とした美しさを有している。

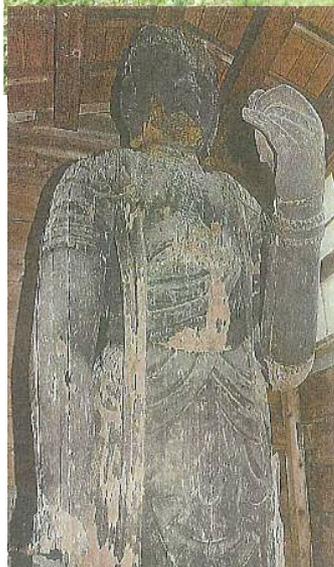
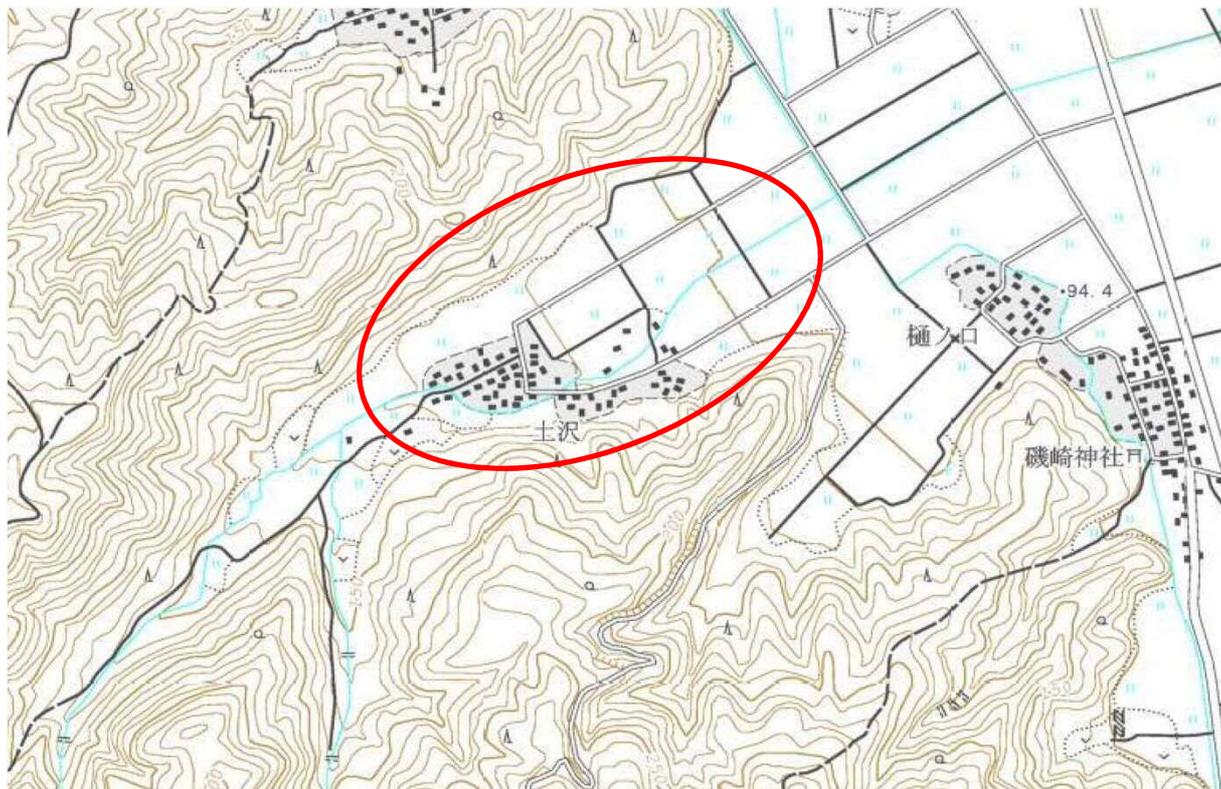
4 活動状況に関する特記事項

- 地域のクリーンアップを春と秋に実施し、秋のクリーンアップ終了後、地域住民の収穫感謝祭を開催している。
- また、保存樹の草刈り及び掃除を年2回実施し、8月には神社境内、タニシ池の草刈り及び掃除を実施し、土澤山神社祭典を行っている。

5 その他特記事項

- 山田字北土沢にはかつて、安養寺という寺があり、その本尊だったと伝えられているのが、平安時代後期に慈覚大師によって作られたと伝えられる約4.5mの十一面自在観音立像である。現在は地域の土澤山神社に安置されており、「タニシ観音」として地域住民に崇拝され、昭和31年県有形文化財に指定されている。

地区名: No.12 土沢(つちさわ)地区



地区名： No.13 中ノ台(なかのだい)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 湯沢市皆瀬字中ノ台
- 地区の規模 : 20.0ha
- 地区の傾斜 : 1/9～1/28
- 棚田等の枚数 : 152枚
- 標高 : 258m～357m
- 組織等の名称 : 中ノ台集落協定(中山間)

2 営農・保全の状況

- 大半が水稲となっている。
- 用排水路の清掃、農道・水路の補修、地域全体の草刈りを年2回実施し、環境保全に努めている。

3 景観等に関する特記事項

- 未整備区域であり、昔ながらの棚田の景観を保っている。
- 休耕地があるものの営農が一体的な広がりがあり、地域住民が景観や環境を保全する活動を行うなど、維持管理が行き届いている。
- 地域資源を活用した交流活動を行い、伝統文化の保存に努めている。

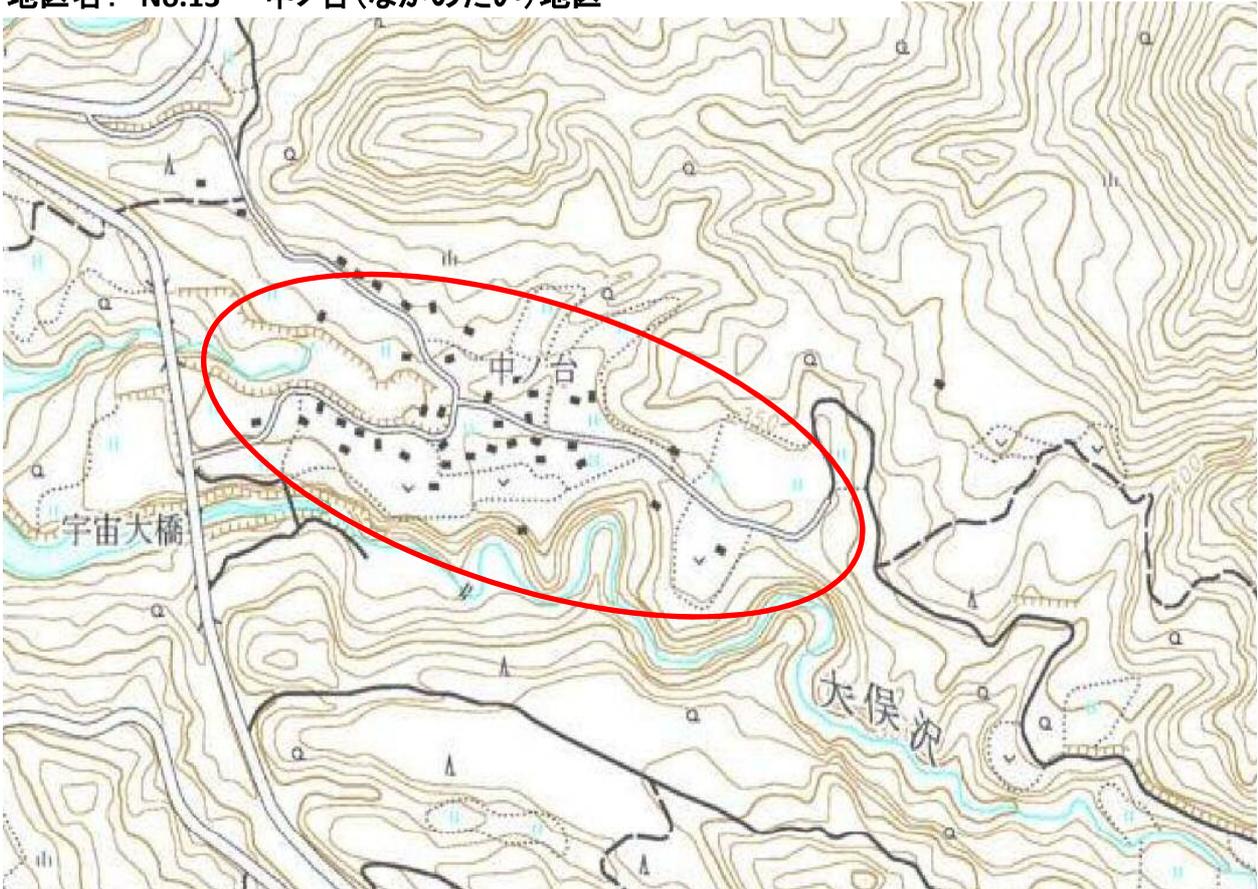
4 活動状況に関する特記事項

- 毎年4月13日虚空蔵神社祭(豊作祈願)、9月13日虚空蔵神社祭(収穫のお礼)と2月に山の神祭(山の産物祈願)を開催し、地域の交流活動を行っている
- 「イキイキプロジェクト」と称して、地域に桜や花きの植栽を行って地域の世代間交流を図っている。
- 平成12年に組織化された中ノ台集落協定(中山間地域等直接支払制度)により、地域住民共同で棚田の維持保全を図っている。

5 その他特記事項

- 皆瀬ダムに面する大俣沢と生内沢に挟まれた台地上の集落であり、かつては行き止まり集落であったが、国道398線の整備により交通のアクセスがよくなっている。
- 永禄8乙丑年高橋民部が守護神として奉斎していたが、何時の頃からか本地虚空蔵菩薩と唱えられ、虚空地堂と称された。明治24年以後、虚空蔵神社と称している。

地区名: No.13 中ノ台(なかのだい)地区



地区名： No.14 岩井川(いわいかわ)地区



1 地区の概要

- 地区の所在地 : 雄勝郡東成瀬村大字岩井川 (いわいかわ)
- 地区の規模 : 7.0ha
- 地区の傾斜 : 1/30
- 棚田等の枚数 : 57枚
- 標高 : 220~300m
- 組織等の名称 : 岩井川資源保全会、中山間岩井川集落協定(中山間)

2 営農・保全の状況

- 現在の営農は、豊富な水資源を活かしながらの水稻作受けがほとんどである。
- 地域ぐるみで水路の清掃・農道や水路の補修、刈り払い等の活動を年4回実施し、施設の維持管理と環境保全に努めている。

3 景観等に関する特記事項

- 耕作放棄地がなく、営農に一体的な広がりがあり、地域住民が景観や環境を保全する活動を積極的に行っているため、維持管理が行き届いている。
- 岩井川神社の祭典等を通じて地域ぐるみで交流活動を行うなど、伝統文化の保存に努めている。

4 活動状況に関する特記事項

- 資源保全活動としては、地域のクリーンアップを春に、水路の泥上げや草刈りを夏から晩秋にかけて実施している。
- また、5月の第2日曜日には岩井川山神社の祭典を開催し、親子会や青年会等の団体が恵比寿俵(えびすだら)の奉納を行うなど伝統行事の存続と保存に努めている。
- さらに本地域はコミュニティ活動も盛んであり、夏祭り・文化祭などの定期的なイベントの開催を通じて地域の絆を確固たるものとしている。

5 その他特記事項

- 岩井川の地名は「岩のある清水の湧く沢」の意味を持つ「岩井沢」から出ており、その名のおり豊富な水資源がある地域である。
- また、本地域には享保10年に造立された岩井川神社があり、平成27年に造立290周年を迎えている。この神社は、本地域の基幹農業用水路である遠藤堰の開設者とされている遠藤伝左衛門氏が造立したものであり、祭典を通じ集落発足のきっかけとなった地域資源と伝統行事を密接に後世に伝承している。

地区名: No.14 岩井川(いわいかわ)地区

